

賀正



第268号 昭和35年1月1日

発行所 和歌山市小松原通1丁目1番地

和歌山県

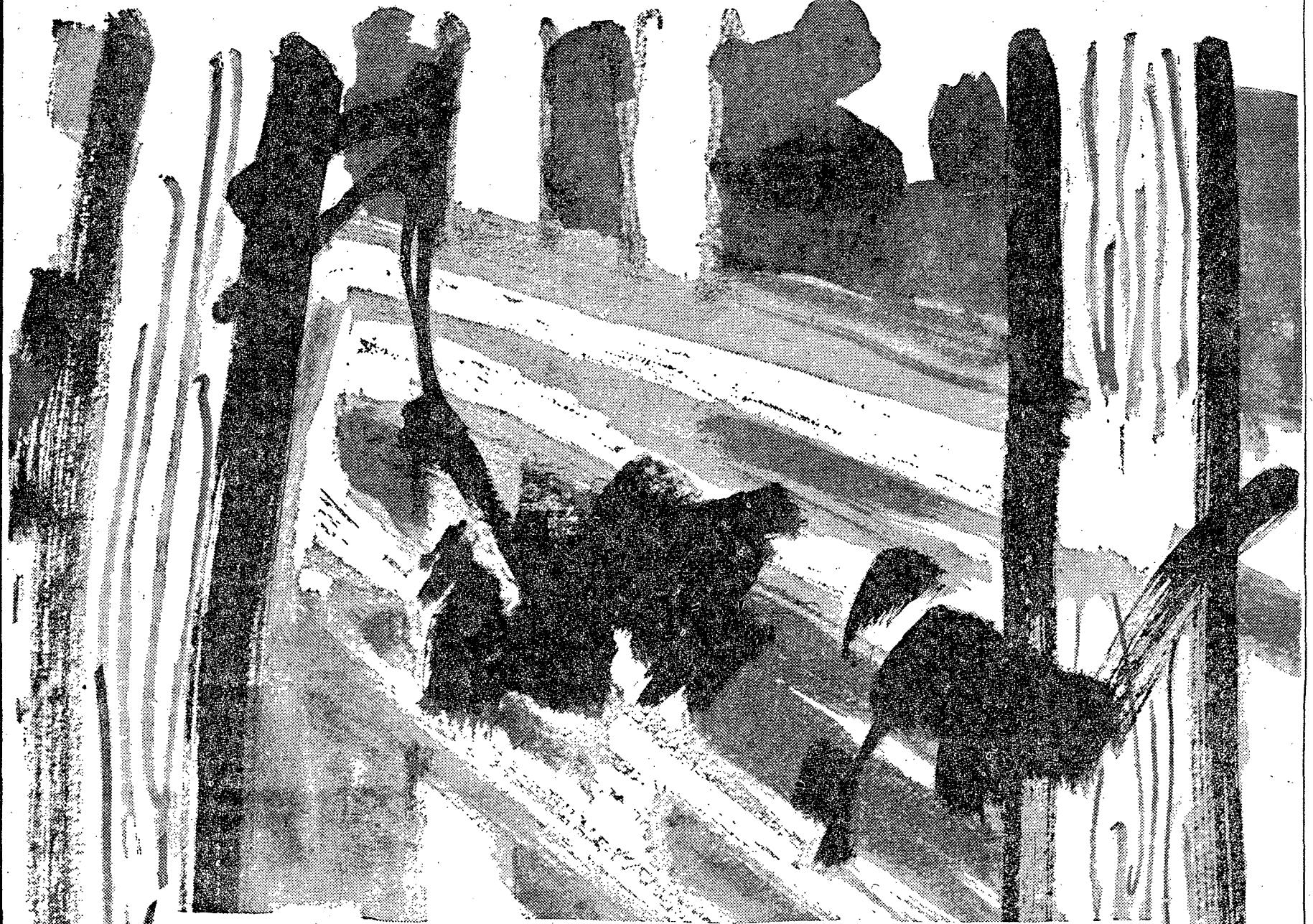
発行人 文書広報課長 田中米市

毎月1回1日発行 定価1部2円

昭和23年3月24日第三種郵便物認可

昭和29年5月28日日本国有鉄道特別扱承認

雑誌第2816号



名前の議員が選ばれ
第四期県議会が発
足したのである
りませんが、以来八
カ月余、新議会の
構成、三十四年度予算の肉付け、台
風十五号
災害対策
等々、息
づく暇も
なく県政
の進展に

百年の大計を推進

県議会議長 坂 久五郎

本年における県政もまた、まことに
多事多難が予想されます。一方に
おいてきびしい財政再建の途を歩み
つつ、しかも他方において災害の復
旧を行ない、同時に本県百年の大計
を積極的に推し進めなければならま
せん。財政再建と積極的事業の推進
を、財政再建と積極的事業の推進



身も心も新たな息吹につつまれ、今
年こそはという明
るい希望に胸をく
らませて新年を迎
えられたことと存
じます。待望久し
かった紀勢線は遂
に全通し、一級国道和歌山松阪線の
昇格施行について二級国道新宮大
和富田線の直通、その他道路、橋梁
の整備など交通面に朗報がもたらさ
れ、北部臨海工業地帯の整備、四国
和歌山地方開発計画の推進などによ
る県民の皆さん、明けましておめでと
うございます。

先進県を目指して

和歌山県知事 小野 真次

このためには、手堅い底力のある県
政を打出し、県政各級の伸張を目指
し、後進県より脱皮することに全力
を傾注しなければならぬと存しま
す。しかし一方県財政の事情は連年
の災害もあって弾力性に乏しい現状
を努めてまいりました。

幸い本年はいわゆる数量景気のうち
に明けました。また紀勢線全通第二
年目を迎えた本県
観光の躍進は、副
目に値するものが
あります。その他
あらゆる面から見
ても、今や本県は
一大飛躍の気運が渦を巻いて盛り上
っている感じがいたします。

「目に新たに、また目々に新たに」
常にこの意気をもって使命の達成に
邁進したいと存じます。どうか
皆さん、倍旧のご指導とご鞭撻を賜
わりますようお願い申し上げます。

新春放

1960年の県政

新年を迎えれば誰でも過ぎ去つた年を反省する...



問題などは他府県より遅れている...

入らなすけ、今は県内、といつても新宮の場合...



和歌山県の交通機関の目標は...

港湾改良に231億円

埋立地に工場を誘致

A 北部臨海工業地帯の工業振興というものは、主に住友の拡張ですか。

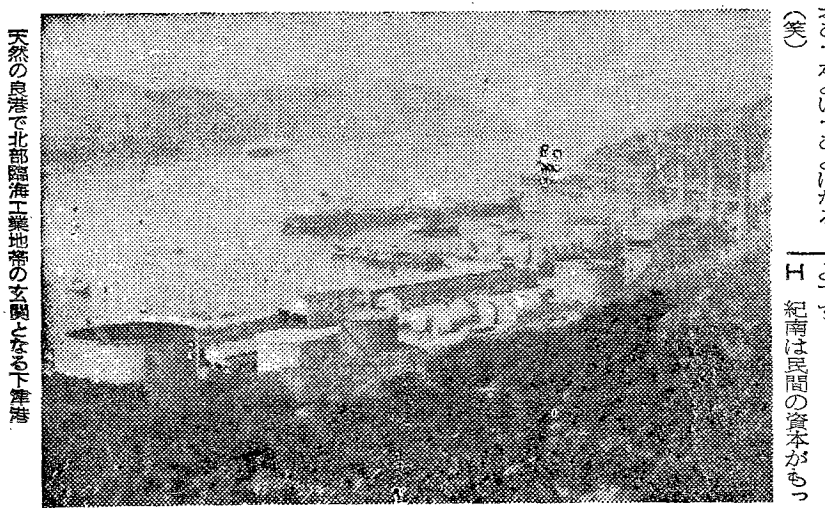
いんです。工業用水などもその一つですが、一番大きく現われてくるのは港湾の改良です。

出席者

- 西山 忠 康
丸山 金 太郎
小川 伊 三郎
中井 英 俊
吉沢 光 雄
岡本 和 彦
森山 朝 男
矢野 一 男
片桐 健 夫
小野 真 次

B 紀勢線の問題ですが、南と出ていって、県だけでやる問題じゃないですね。

知事 いま津野というところまで、地盤沈下などもあ...



安全ならやりたい

原子力発電による開発

B 原子力発電会社... A 僕は素人でわかりませんが...

県下に67の相談所

ガン対策を強く推進

A 最後に健康和歌山という... B 反対する理由はないと思...

知事 いや、それはいいかんで... B 反対する理由はないと思...

文化財防火デー 1月26日
法隆寺金堂炎上11周年
文化財防火デー 1月26日

謹んで新春の御祝詞

- 前田 裕一
中村 常夫
小川 周次郎
下川 保三
岡本 徳夫
森本 利雄
山崎 隆一
東山 弘一
丸山 純一
石井 俊治
中村 賢一
浦林 重男
山西 増重
二階 俊太郎
中谷 良太郎
平越 孝一
笹野 一男
和田 鶴一
土橋 三郎
前中 哲夫
松本 新一郎
松本 新一郎
村上 六三
丸山 輝雄
樋口 徹也
竹中 節男
森岡 辰也
中谷 鉄也

